

一人一人のニーズに応じた支援を行います(1面)  
いじめ根絶県民運動を推進しています(2面)  
家庭で地域で子どもをはぐくもう(3面)  
佐渡中等教育学校が開校します(4面)  
第57回全国高等学校スキー大会(4面)  
Information(4面)

# かけはし

## 一人一人のニーズに応じた支援を行います

～「特別な場での教育」から「一人一人の教育的ニーズに応じた教育」へ～

### 子どもの信号に気づいてあげましょう

発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)のある子どもたちは、次のような「困難」を抱えている場合があります。

聞かれたことと関係のないことをつい言ってしまう。  
席についていられず、思わず立ち歩いてしまう。  
「こだわり」があり、初めてのことに強い不安をもってしまう。 など

何度注意しても、同じ失敗やトラブルを繰り返してしまう。  
これが支援を必要としている子どもの信号の一つです。  
不安を感じたら、まず、学校や相談機関(各教育委員会・児童相談所等)に相談してください。

発達障害のある子どもたちが示す学習上のつまずきや行動上の特徴は、親のしつけや本人の性格のせいではありません。その子どもたちが何に「困っている」かに気づき、その背景を理解して適切な教育的支援を行う必要があるのです。

### 家庭や地域で支え、育てましょう(子どもたちへの接し方)

発達障害のある子どもたちは、様々な困難があることから、自分に対する自信がなくなっている傾向があります。このような子どもたちを家庭や地域で支え、育てるために、次のような対応を心がけましょう。

その子が自分のよいところに気づくよう、機会をとらえて褒めましょう。  
よいふるまい方を具体的に教え、認めて伸ばしましょう。  
できないことを指摘したり、他の子と比べたりすることはしないようにしましょう。

「できた」という経験をたくさん積みませ、自信をもたせましょう。  
困ったときに助けを求めめる力を育てましょう。

### 新潟県では すべての学校・幼稚園・保育所で

### 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援に取り組む特別支援教育を推進します

特別支援教育では、これまで障害児教育が対象としてきた特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室に通う子どもたちだけでなく、新たに、通常の学級において学習上のつまずきや行動上の特性のために様々な困難を抱えているLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症等の発達障害のある子どもたちも含め、子ども一人一人の教育的ニーズに応じて支援していきます。

一人一人の子どもに必要な指導や支援を行えるように

- 学校・幼稚園・保育所に
- ①「特別支援教育コーディネーター」を配置します
  - ②「校内委員会」を開きます

幼稚園等 小学校 中学校 高等学校等



**特別支援教育コーディネーターの働き**  
保護者等の相談の窓口です。担任の支援を行います。特別支援学校や他の相談機関等との連絡や打合せの調整を行います。

**校内委員会の役割**  
支援を必要とする子どもの支援内容・体制等を検討します。「個別の指導計画」等の作成を行います。校内の研修計画等を立て、校内支援体制の整備を推進します。

支援要請

### さらに 学校・幼稚園・保育所を支援します

#### 特別支援学校(盲・聾・養護学校の総称です。)

特別支援学校は、地域の特別支援教育のセンターとして、研修会や教育相談、事例検討会などを行い、学校・幼稚園・保育所の支援をしています。

#### 通級指導教室

通級指導教室(ことば・きこえ・発達障害)は、小・中学校内に80教室設置されています。通常の学級の児童生徒が必要に応じて通い、指導・支援を受けることができます。県では未設置地域に計画的に設置します。

#### 巡回相談・専門家チーム

県では学校・幼稚園・保育所に対し、相談員による巡回相談の実施や、要請に応じて専門家チーム(大学・医療の専門家)の派遣を行っています。(巡回相談を市町村が行っている地域もあります。)

助言・援助